

慶徳会入居事業所等で大正11年生れ3名のご利用者か今年めでたく百寿を迎えられ、敬老月間に内閣総理大臣からお祝い状、茨木市長から、お祝い状と記念品が贈呈されました。

【光華苑・玉田隆さん（4月19日生れ）】

賞状などの伝達式を兼ねて、光華苑・春菊苑のご利用者と職員一同で、9月のお誕生日会の席でお



大喜びの玉田さん

手を受けると、玉田さんは満面の笑みをたたえられ、耳がご不自由なため、言葉での表現はおできになりませんが、筆談とジェスチャーで「有難うございます。皆さんのお陰です」と喜びを一身に表されています。

玉田さんは、苑最古参のご利用者です。コロナ禍以前は、お元気一杯であったこともあり、長年にわたり、苑内の清掃業務のお手伝いを初め、自治会の行事や市の一斉清掃には必ずご参加下さいました。

また、ご趣味も幅広く、絵画や書道、そしてレタリングを楽しまれ、秋華祭・文化発表会や春日地区発表会に毎年ご出品されるとともに、毎月の「お誕生日会」には、お祝いの紹介ポスターを作成して頂くなど、多方面にご貢献を下さっています。

現在のご体調を大切にされ、苑での生活を一層充実して送って頂けるよう、全職員で見守らせて頂きたいと思っております。

祝いをさせて頂きました。

伝達役の矢次淳一施設長から祝意とともに賞状と記念品の金杯が渡され、皆

さんからの拍

百寿のお祝い

【はぎ・高須ケイさん（8月16日生れ）】

7月末に、新型コロナウイルスに罹患・入院され、とても心配しましたが、お誕生日までには、すっかり回復されましたので、同日にはぎの皆さんで「百寿のお祝いの会」を開きました。



「祝賀プラカード」の前で

喜びをかみしめる高須さん

デイリームをご利用者の皆さんを皆喜んでお祝いした。退院直後とは思えないお元気で大きく棒を振り下ろすと見事スイカに命中し、皆から歓声とともに、大きな拍手が沸き起こり、コロナ禍で、沈みがちな空気を高須さんの慶事とスイカ割の楽しい雰囲気によって、一変させてくれました。

そして、明るく、和やかなお祝いの締めくくりに、皆で歌「ハッピーバースデーチューユー」を高須さんに贈りました。

面会に見えたご家族からも、「無事に誕生日を迎えることができ、顔なじみの皆さんに祝って頂いて、いつもの笑顔が見られて良かった」と、とても喜んで頂きました。

はぎのご利用者や職員からの「高須さんみたいに年を取りたいね」「お手本だね」の評判どおり、ご家族のお話によると、ご苦労の多い人生を送ってこられたそうですが、そのようなことをおくびにも出されず、いつも

ニコニコと朗らかで、毎朝の口腔体操では、大きな声で音読に参加されるなど、何事も前向きに取り組まれ、周りの方も自然に引き込まれています。これからもお元気に年を重ねられ、いつもの笑顔が見られますよう、支援に努めたいと思います。

【見付山めぐみの里・ききよう・香西利子さん（4月29日生れ）】

お誕生日の夕食時に「お祝い会」を開き、ご



賞状を手に凜とされる香西さん

入居者と職員それぞれ代表からお祝いのメッセージと花束をお贈りしました。

また、9月15日の敬老の日に、デイサービスを利用されている「ききよう」で、その伝達式をさせて頂き、お祝い状と記念品をお受けになった香西さんは、「この度は100歳をお祝い頂き、誠にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。」と笑顔で喜びのお気持ちを話されていました。

平成27年の事業所開設当時からご利用頂いていますが、その時から少しもお変わりなく穏やかで、とても愛らしいお姿に、一同いつも和ませて頂いています。普段の生活では、歩行器をお使いですが、とてもこのお年とは思えないぐらい、凛と背筋を伸ばして歩かれ、めぐみの里と「ききよう」での生活を満喫されています。これからも、ますますお元気で過ごして頂きますよう、職員一同、心から祈念するとともに、香西さんの元気を少しでも頂きたいと願っています。

光華苑・春菊苑にも外国籍の魅力的な職員が勤務しています。

ネパール国籍のラナ・マガル・パタク・マニシャさんは、日本の大学の福祉学科を卒業後、令和2年12月から光華苑の生活相談員として採用されました。

「手をつなごう、助け合おう」を自身のモットーにしながら、寄り添う支援を心掛けています。「ご利用者と接することで毎日が楽しい」と話すマニシャさんは2年の経験を積む間に、苑には欠かせない存在にまで成長されました。

もう一人は、ベトナム国籍の「ヴ・チャン・タン・チュックさんです。令和2年1月から臨時職員として春菊苑で働きながら専門学校に通い、介護福祉士の資格を取得して、同4年4月から春菊苑の介護正職員として採用になりました。

「ご利用者と接する中で、日本の文化を学ぶことも多い」と、元氣いっぱい働く姿が印象的です。最近では趣味で空手を勉強しているそうで、空手の型をご利用者に披露すると「ワーツ」と歓声が沸き上がっています。

ニコヤカに撮影に応じる2人



右：チュックさん
左：マニシャさん



ご利用者との
会話がはずむ
マニシャさん



歌詞カードをまえに
ご利用者と歌を練習する
チュックさん

二人の優しく一生懸命な姿が、光華苑・春菊苑の雰囲気温かくしてくれています。

常清の里では、令和4年度からネパール国籍の生活相談員2名が勤務しています。

アディカリ・カルン・チャンドラ（カルン）さんと、チャウラ・ガイ・ルパ（ルパ）さんです。

二人とも6年前に来日、福岡の日本語学校、そして兵庫県の福祉系大学を卒業後、慶徳会の、試験に応募されました。

常清の里としても、外国籍の方は初めてのことで

外国籍職員の紹介

～光華苑・春菊苑・常清の里の巻～

第3弾



右：カルンさん
左：ルパさん

インタビューで
元気に答える二人

夏祭りの
レクリエーションで活躍



したので、文化の違いや習慣など、少し戸惑いはありました。程なくしてお互いに馴染むことができました。

カルンさんは、故郷に「日本の福祉を持ち帰りたい」との思いから福祉を学べる大学に行くことを決断されただけに、とても熱心に仕事に取り組むだけでなく、謙虚で明るい人柄は、ご利用者からも人気者です。仕事の呑み込みも早いので、彼を頼りにすることが多くなっています。また、介護福祉士資格取得を目指し、猛勉強中でもあります。

一方、ルパさんは、日本では介護人材の確保が急

務であると知り、本国では祖母と同居していた経験から、日本で高齢者に携わる仕事をしたいと思いつく福祉が学べる学校を選んだそうです。

職場では、言葉のハードルがありながらも、持ち前のガッツと責任感で仕事に取り組み姿には感心させられます。また、後回しになりがちな掃除なども率先して行うなど、心の強さと優しさの双方を感じます。そして、日本語と英語も話せるので、将来は国際的に貢献したいとの抱負も話されています。

二人を迎えて半年が経過し、「まだまだ不慣れです」と控えますが、周りの目から見えてしっかりと正職員としての役割をたしていると思います。また、私生活ではわが国での希薄化が懸念されている家族をととても大切にしている文化に感動し、不慣れな外国で、それも介護という厳しい職業を選択されたことも合わせ、皆が学ばされています。

これからの成長が楽しみです。

地藏盆会

令和4年8月24日（水）、慶昌堂で地藏盆会をお勤めしました。コロナ感染予防の観点から、昨年に引き続き、施設長と子ども達の家の子も達での法要となりました。

大和治文相談役の法話の中で、「お地藏さんは地域の子も達を守ってくれる、守り仏である。」とお話がありました。

感染予防のため、今年は地藏街道を回ることは見合わせましたが、お地藏さんの話を聞き、「来年はお地藏さんに直接お参りができると良いね。」と話している子もいました。

みんないつも、地藏盆会に続いて開催される納涼大会を楽しみにしているのですが、今年も残念ながら中止となりました。来年こそは、コロナ禍が落ち着き、地域の方々との楽しいひと時が過ごせよう、子ども達と共に願っております。

（合掌）